

1. 財務管理論で勉強する内容の紹介

財務管理論とは、以下の3つの企業の行う財務的意思決定を勉強する学問。

- どの事業に投資するか（投資）
- 資金はどう調達するか（資金調達）
- 事業からの利益はどう配分するか（利益の分配）

2. 会社

定義：営利を目的とする法人化された企業

- ・会社の種類（合名・合資・合同・株式会社）

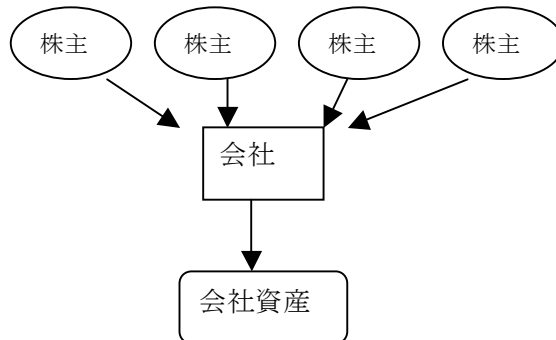
- 合名会社→社員全員が無限責任社員。
- 合資会社→無限責任社員と有限責任社員で構成。
- 合同会社→2006年に新会社法で新しくできた組織形態。
有限責任社員で構成。
株式会社に比べ、組織運営が自由にできる。
例) 持ち分と関係なく利益配分を自由に決められる。
- 株式会社：以下で詳しく。

3. 株式会社

①株式会社の基本構造

： 株式会社は法人である。文字通り、法人は人ではないものなのに法律上、ヒトとして扱われているものである。これによって、株式会社は二重の所有関係の組み合わせによって成立している。

→株主が会社をモノとして所有し、その会社がヒト（法人）として会社資産を所有している。



②株式会社の機関

株式会社は法人である。しかし、法人そのものは生身の人間ではない。単に、法人格を与えているだけである。したがって法人のために、法人に代わって意思決定表示や行動をする人が必要となる。**機関**とは、会社の意思決定や具体的な行動を決定する人や組織のことで以下の3つのことを指す。

株主総会：株式会社の最高機関
取締役会(代表取締役)：業務に関する会社の意思決定（執行）
監査役：取締役の職務執行を監査

②株式会社の特徴：

- ・ **出資者の有限責任制**：会社の債務に対して出資者の責任は出資した投資金額に限定される。
- ・ **企業の永続化可能**
 - 法人そのものには寿命がない。継続的に経営者が供給され、収益を生み出す限り、企業は永続化可能である（ゴーイング・コンサーン）。
 - 清算しなくても、出資者は証券市場を通して投資資金を回収できる。
- ・ **持ち分の譲渡の自由**
 - 出資と引き換えに、会社の持ち分を示す株式が発行される。
 - 発行された株式は、株式市場で自由に売り買いできる。

③株式会社の問題点：

- ・ **経営者と株主との間に利害の対立が発生可**
 - 経営者は株主から経営を依頼されており、株主価値を最大化する経営を行うことが期待される。しかし、株主の代理人（エージェント）である経営者が、必ずしも株主の利益のために行動するわけではなく、経営者自身の利益を優先する可能性がある。これによって株主が不利益を被る問題のことを**エージェンシー問題**という。
- ・ **株式所有の分散が進み、経営活動が複雑になると、株主が企業を支配する力を実質的に失ってしまう**

4. 株式会社の資金調達

資金調達は、以下の**エクイティファイナンス**と**デットファイナンス**に代別される。

①資金調達の方法

- ・ **エクイティ・ファイナンス**

- : 株式発行を伴う資金調達
- : 返済の必要がないので、企業の財務的安全性が増す。
- : 直接金融とも言われる。

・デット・ファイナンス

- : 借入や社債発行による資金調達
- : 返済義務が発生する→負債の比率が過度に上昇すると財務リスクが高まる。
- : 間接金融とも言われる
 - 過去は、特に戦後の成長期には、メインバンクを中心とした間接金融が日本企業の金融の特徴であった。

注) デットファイナンスの中、社債発行による資金調達は投資家から直接資金を調達するという意味で直接金融に該当する。

5. 資本コスト

- ・ 資金（お金）を使用することに対する費用（コスト）
- ・ 企業にお金を提供している投資家は、大きく分けて株主と債権者
 - ✓ 債権者が期待する収益→利息
 - ✓ 株主が期待する収益→配当、値上がり益
- ・ 企業の資本コストは（株主）資本に対する株主資本コストと負債に対する負債コストを加えたもの